



「排泄ケアお役立ち情報をご案内中」

光洋

検索

<http://www.koyo.jp>



— そのケアはその人が望むケアですか？ —

近年、要介護施設従事者等による高齢者虐待が増加しています。

その原因として、「業務の負担が多い」「仕事上でのストレス」など厳しい介護現場の現状や、「知識不足」、また「業務優先の職場体制」「適切でないケアを容認する職場の雰囲気」など様々な理由があります。

適切でないケアは虐待の芽

そのような介護現場の現状で、「そのくらいは仕方ない」「まあいいだろう」「これくらいは虐待ではない」と思われていることはないでしょうか？

例えば、「ちょっと待って」と言ったまま長時間お待たせしてしまうことや、ドアを開けっ放しにしたままトイレや脱衣所での介助、急いでいるために車椅子を早足で押すなど。

このような適切ではないケアを放置し許していると、どんどんエスカレートしてしまう可能性があります。つまり、適切でないケアは虐待の芽とも言えるのです。したがって、施設内での「適切でない言動」は見て見ぬふりをせず、よくないことはよくないと言える職場作り、管理者やリーダーへ相談できる組織作りなどの自浄作用が必要です。

高齢者虐待とは…

- ①身体的虐待
- ②介護の放棄、放任
- ③心理的虐待
- ④性的虐待
- ⑤経済的虐待



以上5項目が挙げられますが、それだけでなく、スピーチロック(言葉による拘束)・ドラックロック(薬物による拘束)・フィジカルロック(身体拘束)や、物理的雑音(大きな音・耳障りな音、温度、汚れた空気、彩光) 身体的雑音(疾病、聴力・言語等の障害、補聴器の不具合など) 心理的雑音(防衛機制、偏見、先入観)などを放置していることも虐待となり、その範囲は多方面に及びます。

高齢者虐待における特徴のひとつに、介護者の半分以上の人が虐待の自覚がないということがあります。常に自分のケアを振り返り、自分が行っているケアは自分が受けたいケアなのかどうか、自問自答してみましょう。

適切でないケアの判断基準は自分がされて「嫌だ」「つらい」と思うかどうかだよ

高齢者虐待を防ぐために…

①明らかな虐待行為は犯罪であり、即時報告

自分が働く施設等で虐待を発見した場合には、スタッフには「市町村に通報する義務」があります。

②チームケアを行なう

チームケアはスタッフどうしの協力関係で成り立つため、お互いの考えをお互いに共有するコミュニケーションは不可欠です。また、スタッフ一人ひとりの個性や能力が最大に活かされるマネジメントや、決めるべきことを決め、言うべきことを言い、取るべき責任を取る管理者のリーダーシップが必要です。

③認知症ケアの専門性を高める

虐待を受けた方の約8割が認知症であるという調査結果があり、虐待防止のために認知症についての正しい知識をつけることも不可欠です。

認知症の方が行動・心理症状(BPSD)をおこし、その対応のために拘束したり虐待に発展してしまう前に、その裏にはその方の性格や慣れ親しんだ習慣や生きてきた歴史などが背景となる理由が必ずあることを認識し、その理由を根本的に解決するための対応や、その人らしさを尊重したケアが必要です。

④ストレスマネジメント

介護職は「感情労働の最たるもの」であり、ストレスに気づかずバーンアウトしてしまう人も多くいます。自身のストレスに気づき解消することが必要です。

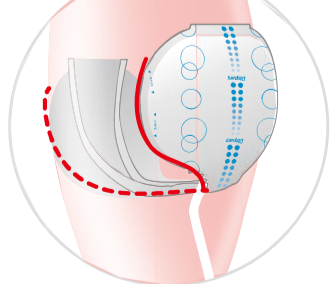
光洋では虐待防止に対応するための、「医療・介護従事者のための接遇」「ストレスチェックとアンガーマネジメント」などの研修も行なっております。お気軽にご相談ください！

ストレスレスな
明るい職場を作ろう！



からだカーブ×きれいエア

スキ間なくあてて、尿を広げず素早く吸収！ニオイも外にもらさない！



- サイズ：26×50cm
- 吸収量目安：4回
- 入数：32枚×8袋



- サイズ：26×56cm
- 吸収量目安：5回
- 入数：32枚×6袋



社会福祉法人明石恵泉福祉会 恵泉第3特別養護老人ホーム様

兵庫県明石市。日本標準時の子午線（東経135度）が通る「時の街」に、恵泉第3特別養護老人ホーム（ユニット型80床）があります。今回は、スキンケアの取り組みについて取材をさせていただきました。

気持ちよく「生きる」

“高齢の方は、何かしらのスキントラブルを抱えている” その考えのもと、尿路感染予防に欠かせない陰部洗浄、白癬予防として酸性水塗布、毎日随時と入浴後の全身保湿等、不快を取り除き、気持ちよく過ごして頂くための工夫を日々のスキンケアに取り入れています。

トップダウンからボトムアップへ…

毎年1つ、看護・介護職員がテーマを出し、施設内のケア改善・向上にむけた取り組みのチーム編成をしています。今までせっかく良い取り組みを行っているのに、現場への定着が難しく、なかなか続かないところが悩みでした。「トップダウンからボトムアップへ」を重視し、チームが主体となって、他のスタッフにも自分たちのやっていることが納得でき、達成感を味わってもらえるよう、研修の内容を工夫してみたり、成果をデータ数値化して目に見えるようにするなど、活動スタイルの見直しをおこないました。昨年・今年度のテーマは「尿路感染症予防ケア」「スキンケア」でした。

取り組み成果の見える化

この取り組みを行うため、チームはまずは職員の中にある「仕方がない（あきらめ）」「なんとなく（曖昧さ）」「これでいいだろう（自己流）」等の固定概念をなくすことから始めました。

病識、陰部洗浄の必要性など知識の再確認をおこなう。膀胱留置カテーテルの管理方法を知ってもらうためバルーンチューブの仕組みや、逆流の様子を実験式に実際目で見てもらう。陰部洗浄は、誰もが同じように実行できるよう、見本となる動画を作成。そして陰部洗浄の手技確認として、マンツーマンで他の人の行っているケアを見る・見せる時間をつくるようにし、できていない点があればその場で伝達をおこない、お互いの技術確認、疑問や改良点など話し合う。その手技確認は敢えて事前に予定せず、“1ヶ月の中でほんの10分” スタッフ自身が自主的に計画をたてて実行されました。



① 施設外観写真 法人敷地内は、きれいな洋館が建ち並びます。



② お互いの技術を確認するため、陰部洗浄実技指導の実施



ご利用者の快適を求めて、スタッフみんなで頑張ります!!

このことから、昨年度の尿路感染症発生率は前年の5分3の減少に繋がりました。今では、誤嚥性肺炎の減少・白癬予防ケアなど、難しい取り組みも皆楽しみながら取り組んでいます。

看護部はみんなに「パワーチャージ」

看護部は、介護だけでは気づけない、偏りがちになる部分をサポートしてくれます。ご利用者の『健康管理』として（医師の指示のもと）治療や処置、与薬といった看護ケアをするだけでなく、おひとりおひとりの肌状態にあったスキンケア用品を、ご家族さんが購入しやすい市販品から取り入れられるよう近所のドラッグストアの商品を調べるなどいろいろな活動をおこなっています。また介護スタッフがわかるようにケアの内容や根拠を教えてくれたり、わかりやすく記録を書いてくれます。ご利用者にも介護スタッフにも、とても頼りになる存在です。

モイストバランス（しっとり拭き取りフォーム）の導入

「ケアが多様化していく中、改善という追加ばかりで介護は足し算になりがちです。陰部洗浄にかかる準備・片づけ・ケア自体の時間短縮とご利用者・スタッフ双方の負担軽減を期待しお試しを始めました。」

こうお話しくださったのは藤田介護主任。

「介護は経験値や体格差、持っている資格などによって全員が同じ質の介護を提供することができないこともあります。ケアの質を下げずに継続させるためには教育訓練を途切れず行っていかなければなりません。こういった物品を取り入れることで質の均一化にもつながるのでは。」

モイストバランスしっとり拭き取りフォームの可能性に期待し、“流さなくていいの？”と疑心暗鬼な意見もある中で「試してみようよ」と、率先して試用を勧めていきました。今では全フロアで継続使用中です。

試用後のアンケートでは、準備・片づけ・時間短縮の業務削減はもちろん、座位による陰部洗浄時の便利さ、スタッフによる手技の差がないこともメリットとして、ご意見を頂いています。

次へのステップ

スキンケアに関しては、各自が判断できるほどにケアの向上がみられます。次なるステップは、ご利用者の“やりたい”をかなえるお手伝い。

すでに排泄支援チームを発足し、現在は科学的根拠に基づき、「ご利用者ができる事までをスタッフが行っていないか?」「その人にとっての自立とは何なのか?」を考え、“質の高いシンプルケア”を目指します。

恵泉第3特別養護老人ホームの皆様、お忙しい中取材にご協力頂き、本当にありがとうございました。